牛久市文化財ガイドブック

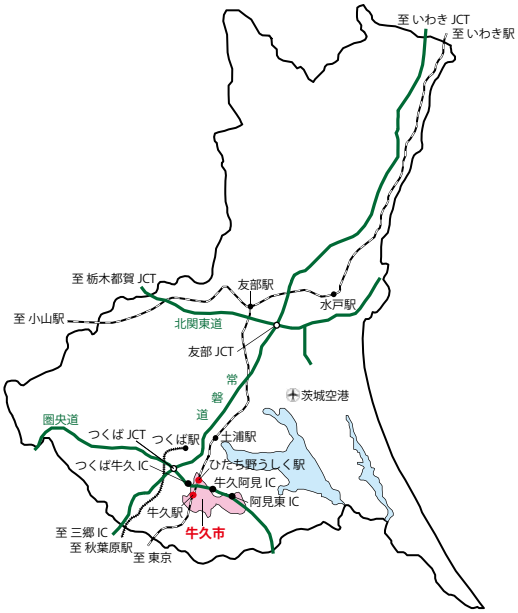
目　次

目次、牛久市へのアクセス	
牛久市の歴史年表、牛久市豆知識、例言	1
旧石器時代、縄文時代	2
弥生時代、古墳時代	3
奈良・平安時代、中世	4
近世	5
牛久の城郭	6・7
牛久の寺社仏閣	8・9
シャトーカミヤ旧醸造場施設	10・11
小川芋銭	12
女化分教場、牛久市索引図	13
地図Ⅰ	14・15
地図Ⅱ	16・17
地図Ⅲ	18・19
地図Ⅳ	20・21
地図Ⅴ	22・23
牛久市の指定文化財一覧、参考文献	24
索引	25

牛久市へのアクセス

○車で　　圏央道つくば牛久 IC から国道 408 号で約 15 分

○鉄道で　　JR 常磐線牛久駅または、ひたち野うしく駅下車



牛久市の歴史年表

時代		牛久市の歴史	日本の歴史
原始	旧石器	ひたち野うしく地区周辺に人が生活を始める	日本列島に人が住み始める
	縄文	市内に集落がつくられる	土器、弓矢の使用が始まる
	弥生	奥原町周辺に集落がつくられる	米づくり、金属器が大陸から伝わる 倭の奴国王が後漢に使いを送る (57 年) 卑弥呼が魏に使いを送る (239 年)
	古墳	姥神遺跡に集落と方形周溝墓がつくられる 蛇喰古墳、獅子見塚古墳がつくられる	前方後円墳がつくられる 仏教が伝来する (538 年) 聖徳太子が摂政となる (593 年)
古代	奈良	市内に集落がつくられる	平城京に都をうつす (710 年)
	平安	市内に集落がつくられる	平安京に都をうつす (794 年) 遣唐使を停止する (894 年) 藤原道長が摂政となる (1016 年)
中世	鎌倉	小田氏が牛久市域を支配する 執権北条氏が小田氏から信太庄の支配権を奪う	源頼朝が征夷大将軍となる (1192 年) 承久の乱 (1221 年) 執権北条氏が滅び、鎌倉幕府が倒れる (1333 年)
	室町	山内上杉氏が信太庄を支配する 信太庄が小田氏と山内上杉氏との対立の場となる 岡見氏が牛久市域を支配する	足利尊氏が室町幕府を開く (1338 年)
	戦国	佐竹氏の常陸国南進により小田氏が衰退する 牛久市域が後北条氏と佐竹氏の抗争の最前線となる 岡見氏と土岐氏が後北条氏の配下となる	応仁の乱 (1467 年) 鉄砲が伝来する (1543 年) キリスト教が伝来する (1549 年) 織田信長が室町幕府を滅ぼす (1573 年)
	安土桃山	豊臣秀吉が後北条氏を滅ぼし、牛久城が落城する (1590 年) 由良国繁が牛久市域を支配する	豊臣秀吉が全国を統一する (1590 年) 関ヶ原の戦い (1600 年)
近世	江戸	山口重政が幕領となっていた由良氏領の一部を拝領する (1629 年) 山口弘隆が牛久陣屋を築く (1669 年) 牛久助郷一揆がおきる (1804 年)	徳川家康が江戸幕府を開く (1603 年) 赤穂浪士が吉良義央を討つ (1702 年) 大政奉還 (1867 年)
近代	明治	廃藩置県により牛久藩が牛久県となる (1871 年) 明治天皇が女化原での近衛兵大演習を天覧する (1884 年) シャトーカミヤ旧醸造場施設が建設される (1903 年)	大日本帝国憲法が制定される (1889 年) 日清戦争 (1894 年) 日露戦争 (1904 年)
	大正		第一次世界大戦が始まる (1914 年)
現代	昭和	牛久村が牛久町となる (1954 年) 牛久町と岡見村が合併する (1954 年) 牛久町と奥野村が合併する (1955 年) 市制施行、牛久市が誕生する (1986 年)	日中戦争 (1937 年)、太平洋戦争 (1941 年) 終戦 (1945 年) 日本国憲法が公布される (1946 年) 科学万博つくば '85 が開催される (1985 年)
	平成	万博中央駅跡地にひたち野うしく駅が開設される (1998 年) シャトーカミヤ旧醸造場施設が国の重要文化財に指定される (2008 年)	長野オリンピックが開催される (1998 年) 北京オリンピックが開催される (2008 年)

牛久市豆知識

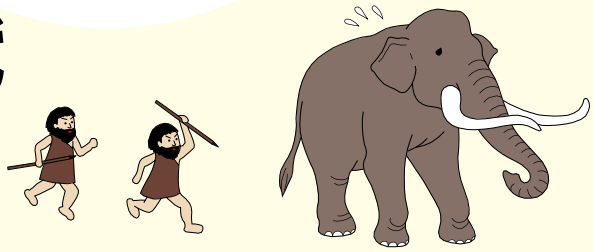
【誕生】 昭和 61 年 6 月 1 日
【面積】 58.92 ㎢
【人口】 84,378 人（平成 26 年 12 月末日現在　住民基本台帳）
【市の花】 菊（キク）
【市の木】 金木犀（キンモクセイ）
【市の鳥】 鶯（ウグイス）

例　言

- 本書は牛久市に所在する主な文化財を紹介したものです。
- 本書の掲載データは、平成 27 年 1 月 1 日現在のものです。
- 文化財見学の際は、土地所有者や周辺住民の迷惑にならないよう注意し、マナーの遵守をお願いします。
- 掲載された文化財は、管理上の都合などにより公開されていないものもあります。問合せは、牛久市教育委員会文化芸術課にお願いします。
- 発行：牛久市文化遺産活用実行委員会
（牛久市教育委員会文化芸術課内）

旧石器時代

日本列島が大陸と陸続きであった頃、人類はナウマンゾウなどの大型獣を追って大陸から移動してきました。人びとは10人前後の集団をつくり、簡単な小屋や岩かげに住みながら、獲物を求めて移動して暮らしていました。旧石器時代は最終氷期に相当し、年間の平均気温が現在よりも7℃も低い寒冷で乾燥した気候でした。



宝物のような石器

２万年前を過ぎ、旧石器時代も終わりに近くなると、大形の尖頭器がつくられるようになります。ヤツノ上遺跡（地図Ⅰ－⑨）や東山遺跡（地図Ⅰ－④）からも、東北地方や茨城県北部でとれる石でつくられた、大形の尖頭器が見つかっています。これらは、薄く、きれいに仕上げられ、使われた痕跡がありません。実用品ではなく、人びとに見せるための、宝物のようなものだったのかもしれません。

石器からわかる人の動き

西ノ原遺跡（地図Ⅰ－⑦）で、石器を製作したと思われる跡が発見されました。そこからは、獣を刺したり、ものを切ったりするナイフ形石器、獣の皮なめしに使われた掻器、石器づくりの際に生じる剥片などが多数見つかっています。これらには黒曜石が多く使われ、特徴から栃木県北部の高原山産のものと思われます。その他に群馬県や千葉県房総半島南部でとれる石でつくられた石器が見つかっており、人びとが関東地方の広い範囲を行き交っていたことがわかります。

牛久市最古の石器

牛久市で最古の石器は、現在のところ、馬場遺跡（地図Ⅰ－③）と隼人山遺跡（地図Ⅰ－⑥）で見つかったナイフ形石器です。これらは、関東ローム層という赤土から出土し、その特徴から約３万年前のものと推定されます。ナイフ形石器は、槍先として棒の先につけて使用され、オオツノシカやナウマンゾウなどの大型獣を捕まえていたと考えられます。

縄文時代

今から約１万5000年前から3000年前頃までの約１万年間続いた長い時代です。気候が温暖になり、安定した食糧獲得が可能になったことで、食糧を追い求める遊動生活から定住生活へと変化しました。また、土器や弓矢が開発され、生活が大きく変化しました。

縄文時代の食生活

赤塚遺跡（地図Ⅳ－㊻）は、昭和59年の発掘調査で、縄文時代中期（約5500～4500年前）の住居跡が20軒、フラスコ状土坑が52基発見され、縄文土器がたくさん見つかっています。形は深鉢形のものが多く、表面にススがついているものは煮炊きに使われていたようです。土器の使用によって、渋くて口にできなかったドングリなどのアクのあるものや、貝や魚を煮たスープも食べられるようになり、食べ物のもつ栄養を十分に引き出せるようになりました。またフラスコ状土坑からは、炭化したシイやクルミなどの木の実が見つかっており、土坑の中で保存していたと考えられます。土の中は温度や湿度が一定で保存に適し、動物に食べられる心配も少なかったようです。

縄文人のゴミ捨て場

貝塚は、縄文人の食べ物の残りや日用品のゴミが捨てられた場所です。牛久沼東岸に位置する城中貝塚（地図Ⅱ－㉟）からも、いろいろなものが発見されています。特に貝類がもっとも多く、ハマグリなど海で採れるものに加え、海水と淡水が混ざりあった場所に生息するヤマトシジミが多く見られます。またコイやウナギなどの魚の骨や、シカやイノシシなどの獣の骨が見つかっています。その他に、縄文土器、木を伐採する磨製石斧、木の実などをすりつぶす磨石、祭りや儀式に使ったとされる石棒などが見つかっています。これらを調べることにより、当時の環境や縄文人の生活を知ることができます。

不思議な土の人形

縄文人は、土偶とよばれる土の人形をつくりました。そのほとんどが女性の姿をかたどっており、バラバラに壊された状態で出土します。土偶を壊すことによって、子孫やムラの繁栄を祈る祭りをしていたようです。ヤツノ上遺跡（地図Ⅰ－⑨）からも、土偶の顔の部分が見つかっています（市指定文化財）。

弥生時代

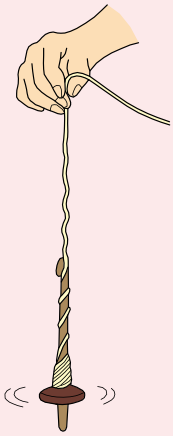
縄文時代は狩猟や採集が主な生活基盤でしたが、今から約 3000 年から 2500 年前、米作りや金属器などの新しい技術が大陸から伝わり、人びとの生活が大きく変わりました。市内の弥生時代の遺跡は、奥原地区に集中しており、いずれも弥生時代後期の集落跡です。弥生時代の様相は、確認されている遺跡数が非常に少なく、不明な点が多いのが現状です。

のこる縄文の伝統

小野川流域の天王峯遺跡（地図Ⅴ－㊶）や乙戸川流域の姥神遺跡（地図Ⅴ－㊽）では、住居跡から弥生土器が見つかっています。この地域の弥生土器は、縄文時代の伝統をひく縄目の文様がつけられているのが特徴です。弥生時代になっても、縄文時代の文化がすべてなくなったわけではないようです。

糸を紡ぐ

天王峯遺跡（地図Ⅴ－㊶）は、昭和 57・62 年に発掘調査が行なわれ、弥生時代の集落跡が発見されました。住居跡からは弥生土器とともに土製の紡錘車が見つかっています。紡錘車とは、カラムシなどの植物の繊維を同じ太さの糸にするために、ねじりながら糸を巻きとる道具です。弥生時代の住居跡からは、紡錘車がよく出土します。その理由は、物物交換のこの時代、貴重な金属器を手に入れるために、糸を紡いで織物をたくさんつくる必要があったからではないかといわれています。



古墳時代

古墳時代になると、地域的なまとまりが一層進み、支配者たちは権威の象徴として古墳をつくりました。牛久市内でも、古墳時代後期（6世紀）になると、前方後円墳がつくられます。

赤く塗られた土器

姥神遺跡（地図Ⅴ－㊽）から、古墳時代前期の方形周溝墓が発見されました。周溝からは、南関東地方の壷形土器がたくさん見つかっています。土器は、ベンガラで赤く塗られ、底に穴があいており、葬送儀礼に用いられたと考えられています。

牛久市内の古墳

貝塚台古墳（神谷６丁目／地図Ⅱ・Ⅲ－㊹）

かつて箱式石棺が発見され、内部から人骨２体、直刀５振り、銀環１対、鉄鏃が見つかっています。現在は墳丘が削平され、残っていません。

蛇喰古墳（神谷２丁目／地図Ⅱ・Ⅲ－㊸）

全長約 45mの前方後円墳で、牛久市最大の古墳です。発掘調査は行われていませんが、古墳時代後期に築かれたと考えられています。

獅子見塚古墳（桂町／地図Ⅳ－㊼）

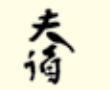
全長約 30mの前方後円墳です。発掘調査は行われていませんが、墳丘から円筒埴輪の破片が採集されおり、古墳時代後期に築かれたと考えられています。現在は筑波南桂工業団地内の公園になっています。

道山古墳群（猪子町／地図Ⅰ－⑬）

かつて古墳が 50 基ほど存在し、古墳からは直刀や耳環が見つかったとされています。現在は前方後円墳が１基、円墳が 10 基のみ確認できます。

奈良・平安時代

７世紀後半、中央政府は国家を統治するために中国を手本とし、基本法典となる律令の制定に力をいれました。律令をもとに税制、地方行政、貨幣経済、軍事などの社会制度の根幹となる制度や機構を整え、天皇中心の仕組みを確立させました。また全国を、都を中心とする畿内と、東海道・東山道など７道に分け、地方支配のために国・郡・里をおきました。牛久市は、常陸国信太郡と河内郡に該当します。



文字のある土器

ヤツノ上遺跡（地図Ⅰ－⑨）や姥神遺跡（地図Ⅴ－㊽）や中久喜遺跡（地図Ⅰ－⑧）で、文字のある土器が見つかっています。これは墨書土器とよばれ、須恵器や土師器の坏などに墨で書かれています。内容は、役所、役職、寺院、施設、人名、地名、数などがあります。これらは、木簡と並ぶ重要な文字資料であり、当時の識字層の広がりを知るうえでも貴重です。

役人の道具

古代の役人は、硯で墨をすり、筆で木簡に文字を書いて、執務を行ないました。当時、紙は貴重品で、長く保存するもの以外は木簡を使い、書き直す際は刀子で表面を削って消しました。姥神遺跡（地図Ⅴ－㊽）では、宝珠硯（市指定文化財）や刀子が出土しています。宝珠硯は、愛知県の猿投窯でつくられた硯で、県内でも珍しい貴重な資料です。文字を読み書きできる特権階級が使用する道具が出土していることから、古代東海道や信太郡衙との関連が考えられます。

ムラに浸透していった仏教

仏教は６世紀に朝鮮半島を経由して日本列島にもたらされました。国分寺が建立された８世紀中頃を境に、仏教は民間へと普及し、ムラ単位で寺が建てられるようになります。ヤツノ上遺跡（地図Ⅰ－⑨）では、平安時代の住居跡から、仏鉢や「佛」と書かれた墨書土器が見つかっています。このようなことから、9 世紀代にはヤツノ上遺跡周辺のムラにも仏教が浸透していたと思われます。

中世

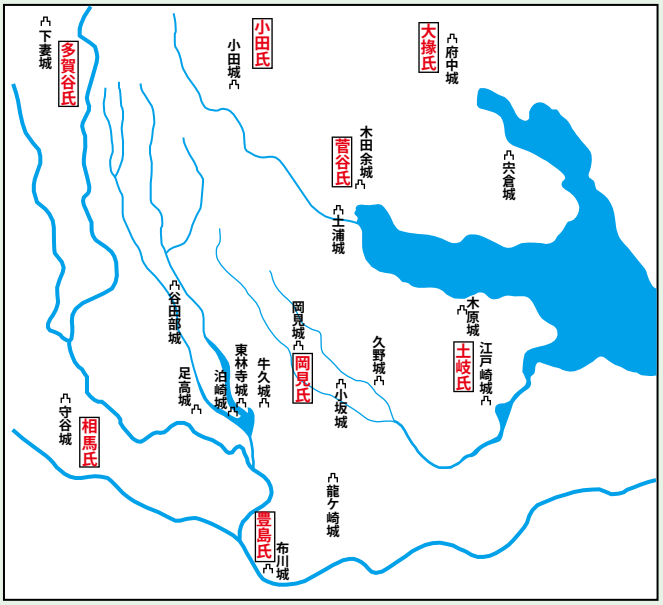
貴族の支配していた社会が衰え、村々に住んでいた武士が新しい時代の担い手として登場します。武士が地方の有力者をまとめて支配するようになり、周囲との戦いも盛んになります。

中世の牛久

鎌倉時代、牛久・岡見・柏田地区は河内郡に、奥野地区は信太庄の一部に該当し、常陸国守護小田氏の支配下でした。後に執権北条氏の常陸国進出に伴い、信太庄の支配権を奪われ、鎌倉幕府滅亡後は、足利尊氏の臣下上杉氏の手に渡りました。

南北朝時代に南朝方にくみした小田氏は、小田孝朝の代に勢力を盛り返しました。特に信太庄は、復権を目指す小田氏と関東管領山内上杉氏との対立の場となり、上杉氏被官土岐原氏（後の土岐氏）とも抗争を繰り広げていました。また、小田氏一族の岡見氏は、岡見城を本拠にして、牛久市域の大半を支配するようになります。

戦国期になると、小田氏は常陸国南部を支配領域としました。岡見氏は宗家小田氏に従い、敵対していた土岐氏も配下に加わりました。佐竹氏の常陸国南進により小田氏が衰退すると、牛久市域は後北条氏と佐竹氏の抗争の最前線、境目の地となります。小田氏の下を離れた岡見・土岐両氏は、後北条氏にくみすることとなり、牛久城には在番衆が置かれ、境目の地の監視と防備が強化されました。豊臣秀吉の小田原攻めにより後北条氏が滅亡すると、岡見氏と土岐氏は没落の道をたどることとなります。



近世

江戸時代の牛久市は、複数の中小領主の領地が入り組んでいました。西部の牛久地区はほぼ牛久藩領、中部の岡田地区は旗本領などが入り混じり、東部の奥野地区は鳥羽藩のちに関宿藩の飛び地でした。

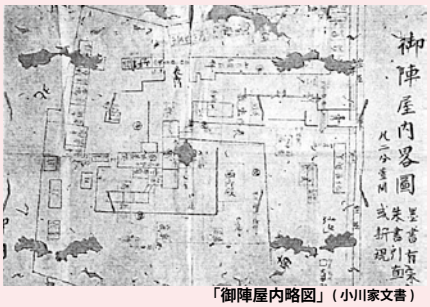
牛久沼から牛久陣屋が位置した台地を望む

牛久藩

幕府の直接支配地となっていた牛久周辺の旧由良氏領のうち3300石余りが、寛永6(1629)年、山口重政にあてがわれました。山口氏は、周防国(現在の山口県)を拠点に君臨した大内氏の一族で、室町幕府に反乱を起こして敗死した大内義弘の次男持盛を祖先としています。山口氏は、初代重政が牛久に領地を与えられ、陣屋を築いた弘隆以降、重定、弘豊、弘長、弘道、弘務、弘致、弘封、弘毅、弘敞、弘達と11代にわたり、明治時代の廃藩置県までの約250年間、牛久藩を治めることになります。牛久藩は石高が1万石余り、水戸道中の牛久宿に隣接する城中村に陣屋を置いて支配を行なった譜代の小藩でした。

牛久陣屋（城中町／地図Ⅱ－㉛）

陣屋とは、江戸時代の幕藩体制において藩の役所が置かれた屋敷で、一般的に3万石以下の城を持たない大名が構えました。牛久陣屋は、牛久沼を望む台地上に、寛文9(1669)年、2代藩主山口弘隆によって築かれました。「御陣屋内略図」(小川家文書)によれば、牛久藩の陣屋の敷地面積は3720坪余りで、陣屋の中には、藩主などが宿泊する御殿や、藩士が住む長屋などがありました。牛久陣屋は維新期に取り壊され、現在は残っていません。



「御陣屋内略図」(小川家文書)

牛久宿（牛久町／地図Ⅱ－㉑）

牛久宿は、水戸道中のほぼ中間にあたる宿駅です。宿駅は、街道の要所に2、3里ほどの間隔で幕府が設定したもので、旅人の宿泊や、荷物運搬の人馬を中継ぎする施設がありました。天保12(1841)年頃の記録によると、牛久宿には問屋場、本陣、旅籠屋、茶店、湯屋などがあり、124軒ほどの家並みが上下の惣門内に続いていたようです。現在、牛久宿の面影を残す家並みは残っていません。

牛久宿の面影を残す家並み(昭和45年頃)

交通の発達

参勤交代や物資の輸送のために交通が発達し、幕府も全国支配の必要から五街道の整備につとめました。水戸道中は、幕府の重要な街道の一つで、五街道の日光道中に付属します。起点は江戸日本橋で、千住までは日光道中になり、新宿で水戸道中と佐倉道に分岐しました。新宿で佐倉道と分かれた水戸道中は、牛久などの各宿を経由して水戸城下に達しました。江戸と水戸の行程は、一般の旅人は2泊3日、大名行列は3泊4日を要したといわれています。

水戸道中と宿駅(『日本の街道2　江戸への道』を一部修正)

一里塚

慶長9(1604)年、2代将軍徳川秀忠は江戸日本橋を起点にした一里塚の築造を命じました。一里塚は、街道の両側に一里(約4km)ごとに旅行者の目印として設置された塚です。一里塚には榎が植えられていることが多く、これは木の根が深く広がって塚を固め、崩れにくくするためといわれています。牛久市内には、水戸道中の一里塚が、江戸に近い方から、成井・田宮・中根の3箇所ありましたが、現存するのは成井一里塚と中根一里塚のみです。

中根一里塚（ひたち野西3丁目／地図Ⅰ－⑤）
牛久市と土浦市の境の、国道6号を挟んだ両側に一里塚があります。東側は中根一里塚(牛久市指定文化財)、西側は荒川沖の一里塚(土浦市指定文化財)になります。

成井一里塚（城中町／地図Ⅱ－㊳）
江戸日本橋から数えて15番目の一里塚になります。若柴宿と牛久宿のほぼ中間点の、成井集落入り口付近にあります。変形していますが、2基とも現存しています。

牛久城と明神遺跡（東から）

明神遺跡で発見された堀

牛久の城郭

戦国期の牛久市は、北進する後北条氏と南進する佐竹・多賀谷氏が激しく対立した「境目」であり、合戦の止むことのない地域でした。そこには防衛のための城郭が数多く築かれました。

鉄鏃
（明神遺跡出土）

明神遺跡（城中町／地図Ⅱ－㊱）

明神遺跡は、牛久城の北側に位置しています。平成25年に発掘調査が行なわれ、牛久城の外郭部を構成する曲輪が発見されました。そこからは台地を縦横に区切る堀などが見つかっています。

牛久城（城中町／地図Ⅱ－㊲）

牛久城は、南に牛久沼を望む台地上に位置し、永禄9(1566)年の『上杉家文書』の「小田氏治味方地利覚書」に「岡見山城守」の城として記されています。天文年間後半(1550年前後)の佐竹氏の南進を契機に築造されたと考えられます。佐竹氏と結んだ多賀谷氏の岡見氏に対する攻撃が激しくなり、元亀元(1570)年に岡見氏の有力支城の谷田部城が開城し、城主の岡見主殿は牛久城に逃れ、後北条氏に救いを求めました。後北条氏は、牛久城の防衛、そして多賀谷氏との戦いに備えて、在番衆として近隣の領主たちを送り込みました。天正15(1587)年、多賀谷氏は牛久城と東林寺城の西隣に泊崎城を築城し、岡見氏の牛久城・東林寺城両城と足高城の間に楔を打ち込みました。まもなく足高城は落城し、岡見氏はますます危機に陥りましたが、牛久城はかろうじて多賀谷氏の侵攻から守りきったようです。しかし天正18(1590)年、豊臣勢力の進出により牛久城は落城したと思われます。その後、一旦は由良国繁が城主になるものの、元和9(1623)年に牛久城は廃城になります。

牛久城大手門跡　　市指定文化財（昭和58年5月6日指定）

岡見城（岡見町／地図Ⅲ－㊼）

河内郡岡見郷は岡見氏発祥の地とされ、岡見城は岡見氏の居城と伝えられています。

桂城（桂町／地図Ⅳ－㊷）

桂城は、土岐氏の有力支城である木原城と龍ケ崎城を結ぶ街道のほぼ中間に位置し、この地は桂川の渡河点（川を渡る地点）にあたります。桂城は、立地や構造などから、恒常的な地域支配の城ではなく、街道の確保と渡河点の監視のため、ある緊張時につくられたと考えられます。

東林寺城（新地町／地図Ⅱ－㉗）

牛久沼に突き出した舌状台地に位置しています。曲輪が南北に一直線に並ぶ梯郭式の縄張りです。城主は、永禄９(1566) 年の『上杉家文書』の「小田氏治味方地利覚書」では木原城主の近藤氏の一族となっていますが、天正 10 年代 (1582 ～ 1591 年) の「岡見氏本知行等覚書写」では牛久城主の岡見氏となっています。後北条氏によって派遣された在番衆は牛久城に置かれましたが、東林寺城も密接な一体性を持っていたようです。また広大な曲輪は、在番衆のためだけではなく、多賀谷氏らと開戦した際に後北条氏の兵が移動してくるのに備えたものと思われます。

久野城（久野町／地図Ⅳ－㊼）

江戸崎城を本拠とする土岐氏が、有力支城である木原城と龍ケ崎城の中継拠点として築いたとされています。

小坂城（小坂町／地図Ⅲ－㊺）

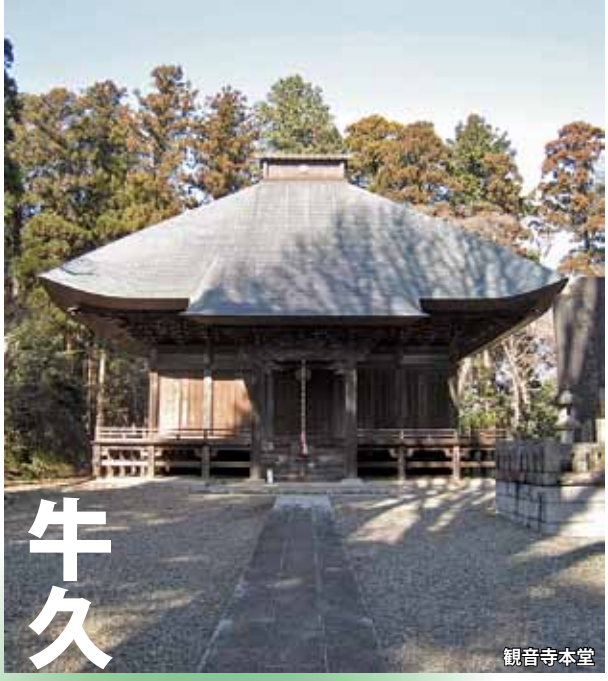
城主は、『小田家風記』に「岡見備中守」の名が記されていることから、岡見氏の一族であったと考えられます。城の構造的な特徴は、各曲輪を守る土塁と空堀が複雑な折れをもつことです。これは、曲輪の外部にいる敵を側面から攻撃するとともに、空堀に侵入した敵の移動を妨げ、視界を遮るためと考えられます。

小坂城跡　　市指定文化財（平成 18 年 11 月 24 日指定）

遠山城（遠山町／地図Ⅱ－㊴）

牛久城の東側に大きな谷が入り込み、この谷を挟んだ対岸の台地先端部に遠山城が築かれています。この城の歴史はわかっていませんが、在地支配のために機能していたと考えられます。

牛久の寺社仏閣


観音寺本堂

観音寺（久野町／地図Ⅳ－㊾）

嘉禄２(1226) 年、「十一面観音之御堂」として建立されたと伝えられています。開基は、行基・乗仙・教海の三説あります。大永５(1525) 年、熊野三山から東国に下向したとされる、教海十穀によって再興されました。熊野三山は古くから天台宗と密接な関係をもっており、再興を契機に、観音寺が天台宗になったと考えられています。本尊の十一面観音菩薩坐像は、ヒノキ材寄木造、高さ 102.8 ㎝。細かな彩色表現は、宋風彫刻の様相を呈し、室町時代の作と考えられています。また、本尊が安置された須弥壇は、大振りで重厚な造りで、鎌倉時代末期の作と考えられています。

県指定文化財（平成３年１月 25 日指定）

観音寺仁王門

県指定文化財（平成３年１月 25 日指定）

十一面観音菩薩坐像

県指定文化財（昭和 60 年 12 月 16 日指定）
非公開

願名寺（奥原町／地図Ⅴ－㊾）

時宗の開祖の一遍によって建立されたと伝えられています。本尊の阿弥陀如来坐像は、寄木造、高さ 70 ㎝で、定朝様の作風をもつ鎌倉時代の作と考えられています。弘安３(1280) 年、一遍が奥州からの帰途、奥原に滞在した際、帰依する人びとが寺院を建立し、この仏像を安置したという伝承があります。

願名寺本堂

願名寺山門

阿弥陀如来坐像

県指定文化財（昭和 33 年３月 12 日指定）
非公開

東林寺（新地町／地図Ⅱ－㉖）

文明 18(1486) 年、岡見氏を開基、相模国最乗寺の天助高順を開山として、河内郡小茎郷に建立された曹洞宗の寺院です。天正初めの頃、東林寺は移転し、下野国足利の寺と新地の寺にわかれます。新地の寺は、天正 18(1590) 年に上野国の大拙斎芸が由良国繁にともなって牛久に入った際、寺名を金龍寺と改めて再興されました。寛文６(1666) 年に金龍寺が若柴（龍ケ崎市）へ移転した後、寺名を東林寺に戻したと伝えられています。

東林寺

山口弘封の墓

東林寺城跡五輪塔

市指定文化財（昭和 49 年５月１日指定）
室町時代末期　高さ（左）171 ㎝、（右）170 ㎝
かつて牛久沼を望む台地縁辺部に建っていましたが、現在は東林寺境内にあります。

弘封は８代牛久藩主です。弘封以外の歴代の牛久藩主の墓は江戸につくられました。

得月院（城中町／地図Ⅱ－㉙）

慶長元 (1596) 年、由良国繁の母である妙印尼の菩提を弔うために建立された曹洞宗の寺院。
境内には、妙印尼の墓碑である五輪塔や、小川芋銭の墓があります。

得月院

得月院五輪塔

市指定文化財（昭和 58 年 5 月 6 日指定）
高さ 116.5 ㎝
妙印尼没年の「文禄三年」(1594 年）が刻まれています。

閻魔大王坐像

市指定文化財（平成 20 年 9 月 26 日指定）
宝永 4 (1707) 年
寄木造　高さ 103 ㎝

奪衣婆坐像

市指定文化財（平成 20 年 9 月 26 日指定）
江戸時代中期
寄木造　高さ 56 ㎝

榧

市指定文化財（昭和 58 年 5 月 6 日指定）
小川芋銭はこの榧の木を画材として「樹下石人談」を描き、第６回院展に出品しています。

薬師寺（田宮町／地図Ⅰ－⑯）

真言宗の寺院。弘仁 7 (816) 年、法相宗の徳一の開山と伝えられています。

薬師寺宝塔

市指定文化財（昭和 62 年 4 月 1 日指定）
江戸時代　高さ 326 ㎝
牛久・城中・田宮などの各村の寄進者名が刻まれています。

薬師寺本堂

田宮山薬師寺参道並木

市指定文化財（平成 23 年 10 月 17 日指定）

浄妙寺（井ノ岡町／地図Ⅳ・Ⅴ－㉒）

天台宗の寺院。
本尊は阿弥陀如来三尊像。

浄妙寺本堂

阿弥陀如来三尊像

市指定文化財（平成 20 年 9 月 26 日指定）　非公開
鎌倉時代後期
勢至菩薩（左）　ヒノキ材一木造　高さ 102.3 ㎝
阿弥陀如来（中）　ヒノキ材寄木造　高さ 162.8 ㎝
観音菩薩（右）　ヒノキ材一木造　高さ 95.3 ㎝

金剛院（桂町／地図Ⅳ－㊿）

天台宗の寺院。寛治元 (1087) 年、智円の開山と伝えられています。

金剛院本堂

木造薬師如来立像

鎌倉時代末期～室町時代前期
寄木造　高さ 162.5 ㎝
非公開

金剛力士立像

江戸時代
寄木造　高さ 274 ㎝

観音堂（城中町／地図Ⅱ－㉚）

城中区民会館の隣にある御堂。

木造薬師如来坐像

市指定文化財（平成 11 年 6 月 23 日指定）
平安時代末期
寄木造　高さ 51.3 ㎝　非公開

日本初の本格的ワイン醸造場

シャトーカミヤ旧醸造場施設

（中央３丁目／地図Ⅱ－㊷）

明治 36 年に建設された「シャトーカミヤ旧醸造場施設」は、旧事務室、旧醗酵室、旧貯蔵庫の３棟からなります。日本初の本格的ワイン醸造場として、平成 20 年に国の重要文化財に指定されました。

旧事務室

旧醗酵室

旧貯蔵庫

茨城県稲敷郡岡田村 (現牛久市) に、神谷傳兵衛が葡萄栽培の適地を見出し、南北に長い 120 町歩 (約 120 ヘクタール) もの広大な土地を入手、明治 31(1898) 年に神谷葡萄園を開き、明治 36(1903) 年に葡萄園の北寄りの一角に牛久醸造場として建設したのが、現存するシャトーカミヤ旧醸造場施設です。その後、幾度もの増改築を経て、当時の建物として旧事務室 (現本館)、旧醗酵室 (現神谷傳兵衛記念館)、旧貯蔵庫 (現レストラン CANON) が現存しています。かつては牛久駅まで鉄路が敷設され、ワインを運搬していました。

神谷傳兵衛は、数多くの名士とも交流があり、政治家では榎本武揚、板垣退助、土方久元、松方正義、軍人では大山巌、児玉源太郎、西郷従道らと親交がありました。そのため、多くの偉人たちがこの地を訪れました。

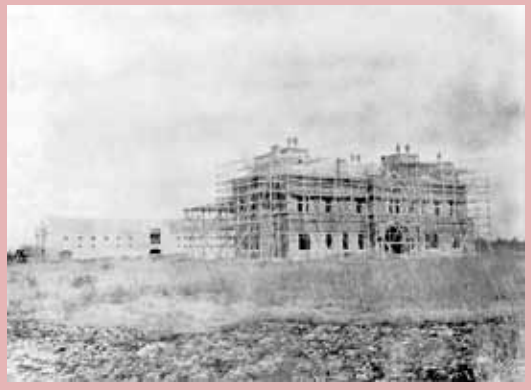
シャトーカミヤ旧醸造場施設は、明治時代中期の本格的な煉瓦造ワイン醸造場の主要部がほぼ完存しており、歴史的価値が高いです。特に旧醗酵室は、各階ごとに配された設備構成等から当時のワイン醸造工程を知ることが可能であり、産業技術史においても重要です。また旧事務室は、原材料となる葡萄の栽培から瓶詰めまでを一貫生産する醸造場だけに認められる称号「シャトー」を名乗るに相応しい意匠を有し、明治時代中期の煉瓦造建築の水準を計るうえでも貴重です。このようなことから、平成20年に国の重要文化財に指定されました。

シャトーカミヤ旧醸造場施設　　国重要文化財

(平成 20 年 6 月 9 日指定)

蜂印香竄葡萄酒

初代 神谷傳兵衛
(1856 ～ 1922)



明治 35(1902) 年頃、建設中の旧事務室。

明治 38(1905) 年頃、シャトーカミヤ旧醸造場施設の周辺に、牛が放牧されています。

明治 36(1903) 年、牛久駅北寄りの線路周辺から望む、シャトーカミヤ旧醸造場施設。

明治 38(1905) 年、児玉源太郎 (前列の右から４人目)。

明治 38(1905) 年、松方正義 (前列の右から２人目)。

明治 39(1906) 年、大山巌 (前列中央)、初代神谷傳兵衛 (前列の右から２人目)。

明治 40(1907) 年頃、旧醗酵室１階。樽への搾汁移送作業風景。

大正２(1913) 年、ワインを運搬するための鉄路が、旧醗酵室の中まで続いています。

大正２(1913) 年、旧事務室２階での祝宴。女性３名の左奥に、板垣退助。

大正４(1915) 年、葡萄園を視察する土方久元。

板垣　退助：民撰議院設立の建白書を提出し、自由民権運動の契機をつくりました。
土方　久元：三条実美に従い倒幕運動に参加。坂本龍馬と連携して薩長連合を実現させました。
児玉源太郎：日露戦争では大山巌のもとで総参謀長を務めました。
松方　正義：内閣総理大臣や大蔵大臣などを長く務め、日本銀行の設立にも尽力しました。
大山　　巌：日露戦争では満州軍総司令官として全軍の指揮をとりました。西郷隆盛は従兄弟。

蜂印香竄葡萄酒の新聞広告。輸入ワインに蜂蜜や漢方薬を加えて、日本人の口に合う甘味ぶどう酒に改良し、明治 14 年に発売。明治 33 年頃には全国で人気商品となりました。

昭和 40 年代、シャトーカミヤ旧醸造場施設とその周辺。

カッパを描いた画家

小川芋銭

明治元(1868)年２月、東京の赤坂で生まれました。明治４(1871)年、廃藩置県で小川家は牛久に移り、農業を営むことになります。芋銭は、幼少期を牛久で過ごした後、東京に出て、洋画の勉強をしました。大正６(1917)年、横山大観らの推薦で日本美術院の同人になり、芋銭独自の水墨画作品を発表します。芋銭は、カッパを多く描いたことから、「カッパの芋銭」として今日も親しまれています。

小川芋銭
(1868～1938)

「牛股武左衛門」(一部)『河童百図』より
牛久市蔵

河童の碑 (城中町／地図Ⅱ－㉜)

昭和27(1952)年、芋銭をしたう池田龍一らによって建てられました。碑には、河童の絵と「誰識古人画龍心」の文字が刻まれています。

市指定文化財(平成25年4月22日指定)

「うきくさのカッパ」(一部)
『河童百図』より　牛久市蔵

雲魚亭 (城中町／地図Ⅱ－㉝)

雲魚亭は、芋銭の最晩年に建てられた、住まいを兼ねたアトリエです。ここへ芋銭が入居したのは、昭和12(1937)年のことです。間近に迫った「古稀記念展」の作品制作や、『河童百図』刊行のため、多忙な日々を送っていました。しかし、昭和13(1938)年1月、脳溢血で倒れ、療養につとめましたが、同年12月、ついに帰らぬ人となりました。雲魚亭は、昭和63年開催の、小川芋銭生誕120年記念事業に際し、遺族から牛久市に寄贈され、現在は「小川芋銭記念館」として、一般に公開されています。

市指定文化財(平成22年6月28日指定)

「改善一歩」の碑 (城中町・刈谷町)

大正11(1922)年、城中青年会が旧牛久村の主要な道に道標を建てる計画をしていたところ、芋銭がその寄付を申し出ました。青年会では道標に芋銭の名を刻もうとしましたが、芋銭は代わりに「改善一歩」と刻むよう希望したといわれています。現在、道標は7箇所残っています。

「老楊と荒村」　紙本・淡彩・屏風六曲一隻　大正２年　牛久市蔵
市指定文化財(平成24年5月21日指定)

懐かしの学び舎

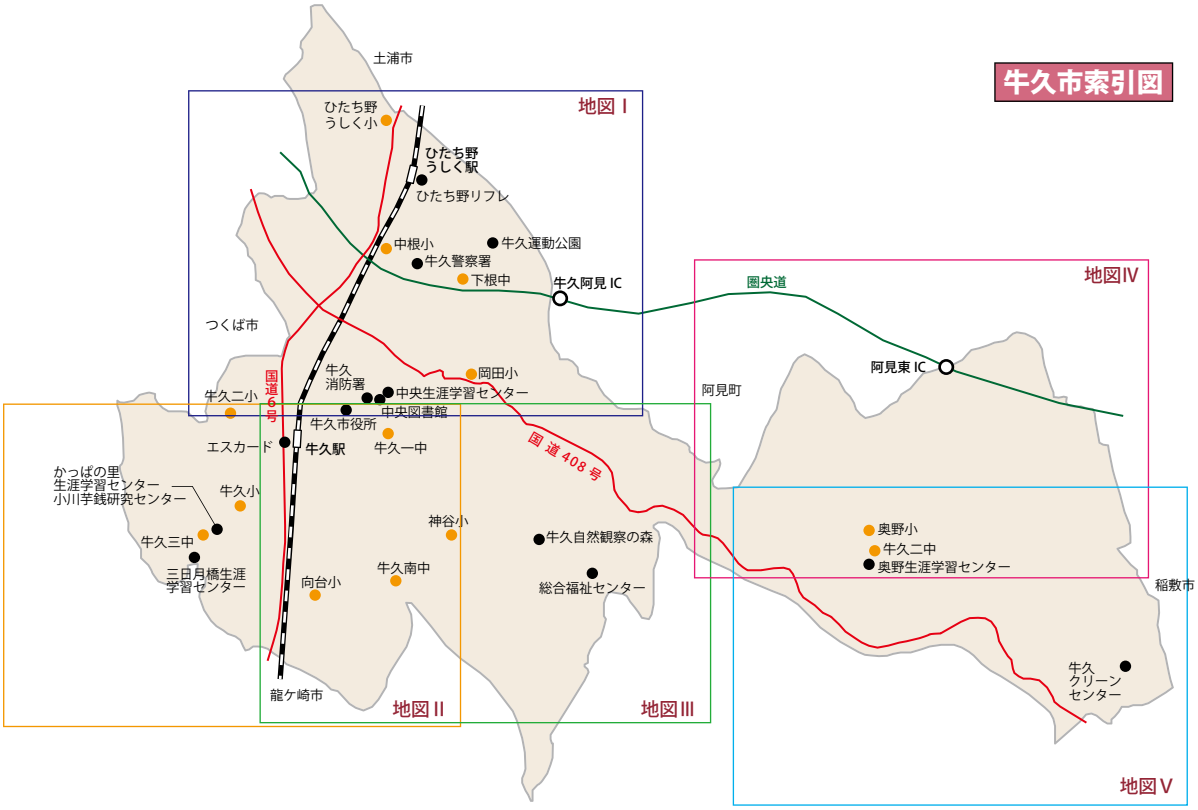
女化分教場

女化分教場（おなばけぶんきょうじょう）は、子供たちの教育の場だけではなく、女化の人びとの集会の場でもありました。昭和 32 年には 138 人の児童が通っていましたが、旧牛久町の方針で本校一校に統合され、昭和 47 年に閉校しました。昭和 14 年に建てられた建物は、現在も女化青年研修所として広く活用されています。

（女化町／地図Ⅲ－㊸）

女化分教場は、昭和 14 年に建坪 104 坪、建築費 7,500 円で建てられました。

女化分教場の校庭で行われた地域の運動会では、「縄ない」のスピードを競う競技も行われました。



1 大日如来石仏（東猯穴町）

寛永７(1630) 年。高さ 54 ㎝。現在は東猯穴公会堂の敷地内にありますが、以前は県立牛久栄進高等学校の東側の十字路にあったといわれています。

青面金剛像（東猯穴町）

寛保３(1743) 年。高さ 101 ㎝。東猯穴公会堂の敷地内にあります。
市指定文化財（平成 22 年６月 28 日指定）

2 八幡神社（東猯穴町）

祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと）。
創立は天和２(1682) 年。

10 御嶽神社（東大和田町）

祭神は伊弉冊命（いざなぎのみこと）。
創立は寛文年間 (1661 ～ 1673 年)。

東猯穴町
自在院跡
1 大日如来石仏・青面金剛像
2 八幡神社
5 中
ひたち野うしく小
4 東山遺跡
馬場遺跡 3
行人田遺跡
6
ひたち野西
ひたち野うしく駅
東大和田町
13 道山古墳群
408
圏央道
御嶽神社 10
鹿島神社 11
中根町
中根小
小屋前遺跡
八幡神
猪子町
鹿島神社 14
東光院跡
蚕影山神社
上柏田
栄町
田宮平遺跡
田宮一里塚跡 15
中央
栄町運動広場
中央生涯学習セン
牛久消防署
田宮町
木村安兵衛生誕地
薬師寺 16
鹿島神社 17
中央図書館
牛久市役所
至取手・上野

11 鹿島神社（かしまじんじゃ）（中根町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。
創立は文禄４(1595) 年。

12 五十瀬神社（いそせじんじゃ）（下根町）

祭神は五十瀬姫神(いそせひめのかみ)。かつて、この地は「酒島村」と呼ばれ、酒が井戸から湧き出たという伝承が残ります。境内には、「酒島」の地名の由来となった井戸や、「酒島村霊泉之碑」があります。

14 鹿島神社（かしまじんじゃ）（猪子町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。

17 鹿島神社（かしまじんじゃ）（田宮町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。

金剛界大日如来石仏（こんごうかいだいにちにょらいせきぶつ）

寛文８(1668) 年。高さ 102.9 ㎝。
市指定文化財（平成 20 年９月 26 日指定）

18 長泉寺（ちょうせんじ）（柏田町）

天台宗。元禄５(1692) 年、尊忍（そんにん）の中興。江戸時代に柏田神社の別当をつとめており、現在も同社の祭礼では「大念仏」が行なわれています。昭和 27 年に上太田大聖寺を合併しました。

19 柏田神社（かしわだじんじゃ）（柏田町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）、経津主命（ふつぬしのみこと）、天児屋根命（あめのこやねのみこと）。創立は大同２(807) 年。御神体は長禄４(1460) 年銘の懸仏（かけぼとけ）で、十一面観音、阿弥陀如来、薬師如来が立体的に表現されています。旧村社。

しょうげんじ
20 正源寺 （牛久町）

曹洞宗。江戸時代初期の開山。鐘楼門（しょうろうもん）は、江戸時代に建てられたものです。

はいじんせきりゅう　ぼひ
俳人石龍の墓碑

天保 15(1844) 年。高さ 142 ㎝。石龍は佐野佐右衛門(さのそうえもん)の俳号。佐野家は、牛久宿の本陣を経営していました。
市指定文化財（平成 20 年 9 月 26 日指定）

めいじてんのううしくあんざいしょ　ひ
22 「明治天皇牛久行在所」の碑（牛久町）

昭和 10(1935) 年。高さ 262 ㎝。明治 17 (1884) 年、明治天皇の女化原（おなばけはら）行幸の際、この地に宿泊されたのを記念して建てられました。

やさかじんじゃ
23 八坂神社 （牛久町）

祭神は素盞嗚命（すさのおのみこと）。創立は寛弘 5 (1008) 年。牛久藩主山口氏の祈願所だったといわれています。旧村社。

かんじょういん
24 観成院 （牛久町）

日蓮宗。黒須嘉市郎・タカ夫妻の開山。嘉市郎は、廃仏毀釈で荒廃した蓮蔵院（れんぞういん）で寺子屋を開き、その後、観成院を建てました。嘉市郎は、牛久小学校の初代校長でもあります。

くろすかいちろう　ひ
黒須嘉市郎の碑

明治 15(1882) 年。高さ 240 ㎝。石碑には、嘉市郎の寺子屋で学んだ筆子の名前が刻まれており、小川茂吉（芋銭）の名前もあります。碑文は、正面が初代茨城県知事の山岡鉄舟(やまおかてっしゅう)、台座が勝海舟（かつかいしゅう）の書です。

しらかわいなりじんじゃ
25 白川稲荷神社 （新地町）

祭神は宇迦之御魂大神（うかのみたまのおおかみ）。享和 3 (1803) 年に京都の白川家から勧請されました。現在の神社は明治時代に移されたものです。

うしくじょうおおてもんあと
28 牛久城大手門跡 （牛久町）

牛久城は、岡見氏によって築城されたといわれています。天正 18 (1590) 年に落城し、一旦は由良氏が城主になりましたが、元和 9 (1623) 年に廃城になりました。
市指定文化財（昭和 58 年 5 月 6 日指定）

あたごじんじゃ
34 愛宕神社 （城中町）

牛久城の土塁の上にまつられています。

かしまじんじゃ
40 鹿島神社 （遠山町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。

せんげんじんじゃ
41 浅間神社 （南 1 丁目）

祭神は木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）。富士山古墳の上にまつられています。

至土浦・水戸
◎牛久市役所
牛久二小 文
田宮町
旧牛久町役場跡
42 シャトーカミヤ
旧醸造場施設
牛久一中 文
柏田町
エスカード
牛久駅
41 浅間神社
富士山古墳
6
南
牛久町
正源寺別院
正源寺
俳人石龍の墓碑
20
21 牛久宿本陣跡
牛久村役場跡
牛久小 文
運動公園
22 旧牛久小跡
「明治天皇牛久行在所」の碑
蛇喰古墳
43 神谷稲荷神社
貝塚台古墳
44
神谷
神谷小 文
の里生涯学習センター
銭研究センター
長福寺跡
23 八坂神社
観成院
24
牛久城大手門跡
28 白山神社
月院 29
山王前遺跡
34 30 観音堂
水神塚古墳
稲荷神社
36 明神遺跡
明神塚古墳
35 城中貝塚
城中町
南窓寺跡
牛久城跡
37
根古屋不動尊
渡し場の森
うな丼発祥の地
至取手・上野
甲塚遺跡
甲塚B遺跡
藤窪遺跡
桜塚遺跡
さくら台
牛久南中 文
48 女化道道標
水戸藩士（諸生党）
久貝悦之進受難の地
文 向台小
城中B遺跡
鹿島神社
40
遠山町
遠山城跡
39
稲荷神社
山中貝塚
38 成井一里塚

45 宝積寺（ほうしゃくじ）　（岡見町）

曹洞宗。天正 10(1582) 年、岡見氏の開基。

46 八坂神社（やさかじんじゃ）　（岡見町）

祭神は素盞嗚命（すさのおのみこと）。創立は寛正 3 (1462) 年。岡見氏が勧請したといわれる剣神社が、大正元 (1912) 年に境内へ移されました。

48 女化道道標（おなばけみちどうひょう）　（さくら台1丁目）

宝暦 14(1764) 年。高さ 100 ㎝。「左　里うがさき」（左は龍ケ崎）、「右わかしば」（右は若柴）と刻まれています。
市指定文化財（昭和 58 年 5 月 6 日指定）

49 鹿島神社（かしまじんじゃ）　（結束町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。創立は寛正年間 (1460 ～ 1466 年)。

50 鹿島神社（かしまじんじゃ）　（上太田町）

祭神は建御雷命（たけみかづちのみこと）。創立は大永7 (1527) 年。現在の社殿は寛永8(1631) 年に建てられました。

51 大日塚及び大日如来石仏（だいにちづかおよ　だいにちにょらいせきぶつ）

（上太田町）

高さ 49 ㎝。大日如来石仏は湯殿山の修験者が布教のため建立したもので、胎蔵界（たいぞうかい）大日如来が刻まれています。
市指定文化財（昭和 58 年5月6日指定）

52 女化稲荷神社奥の院（おなばけいなりじんじゃおく　いん）

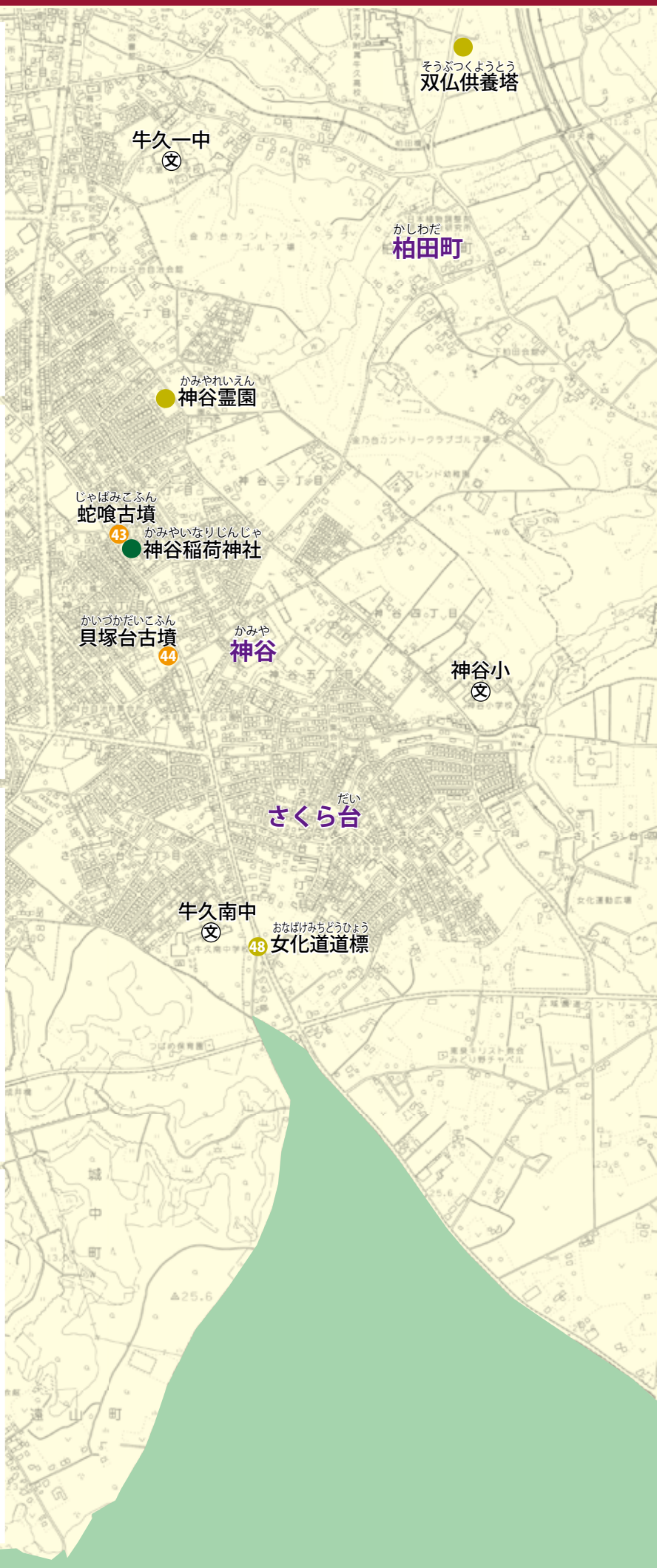
（女化町）

この地には、狐が恩返しのために女人に姿を変えて妻となったが、正体を見られてしまい、穴に身を隠したという伝説が残ります。

54「明治天皇駐蹕之地」の碑（めいじてんのうちゅうひつのち　ひ）

（女化町）

大正 10(1921) 年。高さ 429 ㎝。明治 17 (1884) 年、近衛砲兵大隊による大規模な大砲射的演習が女化原（おなばけはら）で行われ、明治天皇の行幸がありました。



45 宝積寺
旧岡田小跡
46 八坂神社
金比羅神社
岡見城跡
47
岡見町
東河岸跡
小坂町
小坂城跡
55
結束町
鹿島神社
49
牛久自然観察の森
大聖寺跡
50 鹿島神社
大日塚及び大日如来石仏
51
薬師如来堂
上太田町
総合福祉センター
女化Ｅ遺跡
女化町
女化稲荷神社奥の院
52
53 女化分教場
（女化青年研修所）
女化神社
「明治天皇駐蹕之地」の碑
54

56 熊野神社（くまのじんじゃ）　（小坂町）

祭神は熊野加夫呂岐（くまのかぶろぎ）、奇御気野命（くしみけぬのみこと）、速玉之男命（はやたまのおのみこと）、事解之男命（ことさかのおのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）。創立は享保 14(1729) 年。境内には、元文5 (1740) 年銘の青面金剛像（しょうめんこんごうぞう）があります。旧村社。

58 鹿島神社（かしまじんじゃ）　（久野町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。創立は承和元 (834) 年。旧村社。

61 鹿島神社（かしまじんじゃ）　（桂町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。創立は天文 20(1551) 年。旧村社。

63 雲國寺（うんこくじ）　（桂町）

浄土真宗。嘉永 5 (1852) 年、大乗（だいじょう）の開山。加賀藩からの入植者たちは、心の拠りどころとして、嘉永 3 (1850) 年に関宿藩主に願い出て、ついに雲國寺建立をはたしました。

64 大日塚及び大日如来石仏（だいにちづかおよ　だいにちにょらいせきぶつ）

（桂町）

寛永７（1630）年。高さ 68 ㎝。石仏は胎蔵界（たいぞうかい）大日如来が刻まれ、大日塚の上にまつられています。

市指定文化財（昭和 58 年５月６日指定）

65 鎌倉権五郎景政の墓（かまくらごんごろうかげまさ　はか）

（桂町）

平安時代後期、景政は源義家（みなもとのよしいえ）に従い、後三年の役に出陣し、目を矢で射られながらも敵を倒しましたが、この地で亡くなったといわれています。

68 皇産霊神社（正直町）

祭神は高皇産霊命（たかみむすびのみこと）。創立は天延元（973）年。旧村社。

69 大日塚及び大日如来石仏（島田町）

寛永6（1629）年。高さ93㎝。石仏には胎蔵界（たいぞうかい）大日如来と中根姓の寄進者名が刻まれています。

市指定文化財（昭和58年5月6日指定）

70 皇産霊神社（島田町）

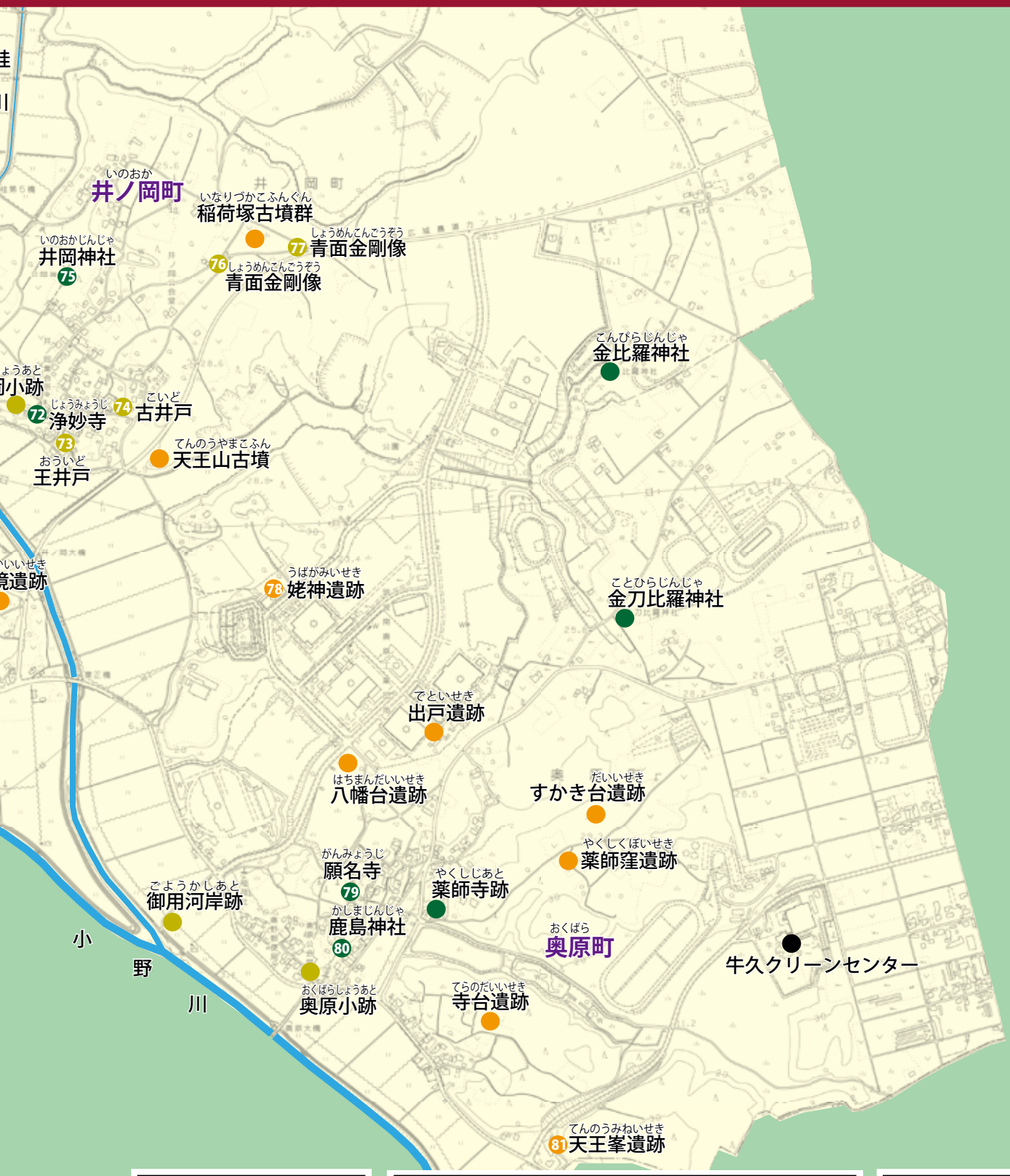
祭神は高皇産霊命（たかみむすびのみこと）。創立は元禄年間（1688～1704年）。「石神様」の通称で親しまれ、境内には多くの陽石（ようせき）が奉納されています。寛政5（1793）年銘の陽石もあります。

71 鹿島神社（島田町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。創立は大同2（807）年と弘仁14(823)年の二説あります。旧村社。

73 王井戸（井ノ岡町）　**74 古井戸**（井ノ岡町）

井ノ岡の台地は砂質のもろい岩盤からなっており、集落の南側は井戸を掘ることができませんでした。そのため2つの井戸が共同で利用されました。



75 井岡神社（井ノ岡町）

祭神は大国主命（おおくにぬしのみこと）。創立は大同3(808)年。出雲大社を勧請してきたもので、かつては「大社明神」と呼ばれていました。境内には天保2(1831)年銘の狛犬（こまいぬ）があります。旧村社。

76 青面金剛像（井ノ岡町）　寛政12(1800)年。高さ96㎝。

77 青面金剛像（井ノ岡町）　安政7(1860)年。高さ85㎝。

庚申（こうしん）の日に、人間の体内にいる三尸（さんし）という三匹の虫が、寝ている間に身体から抜け出て、天帝にその人物の悪事を報告に行くと信じられ、それを防ぐために青面金剛像などの庚申塔をまつり、夜通し眠らないで過ごしました。

80 鹿島神社（奥原町）

祭神は武甕槌命（たけみかづちのみこと）。創立は正保3(1646)年。旧村社。

牛久市の指定文化財一覧

◎国指定文化財

名　　称	所在地	所有者・管理者	指定年月日
シャトーカミヤ旧醸造場施設(３棟)	中央３丁目	オエノンホールディングス株式会社	平成20年6月9日

○県指定文化財

名　　称	所在地	所有者・管理者	指定年月日
阿弥陀如来坐像	奥原町	願名寺	昭和33年3月12日
太刀　銘　備前國長船住長光作	牛久町	個人	昭和36年3月24日
太刀　銘　大和國当麻友(以下切)伝友清	牛久町	個人	昭和36年3月24日
十一面観音菩薩坐像	久野町	観音寺	昭和60年12月16日
観音寺本堂と仁王門	久野町	観音寺	平成3年1月25日

◇市指定文化財

名　　称	所在地	所有者・管理者	指定年月日
東林寺城跡五輪塔	新地町	東林寺	昭和49年5月1日
得月院五輪塔	城中町	得月院	昭和58年5月6日
榧	城中町	得月院	昭和58年5月6日
牛久城大手門跡	城中町	牛久市	昭和58年5月6日
女化道道標	さくら台１丁目	牛久市	昭和58年5月6日
大日塚及び大日如来石仏	上太田町	個人	昭和58年5月6日
大日塚及び大日如来石仏	島田町	鹿島神社	昭和58年5月6日
大日塚及び大日如来石仏	桂町	個人	昭和58年5月6日
中根一里塚	ひたち野西３丁目	牛久市	昭和62年4月1日
薬師寺宝塔	田宮町	薬師寺	昭和62年4月1日
木造薬師如来坐像	城中町	城中行政区	平成11年6月23日
成井一里塚	城中町	個人	平成13年6月22日
小坂城跡	小坂町	牛久市	平成18年11月24日
俳人石龍の墓碑	牛久町	正源寺	平成20年9月26日
金剛界大日如来石仏(時念仏塔)	田宮町	薬師寺	平成20年9月26日
阿弥陀如来三尊像	井ノ岡町	浄妙寺	平成20年9月26日
閻魔大王坐像と奪衣婆坐像	城中町	得月院	平成20年9月26日
姥神遺跡出土宝珠硯	—	牛久市教育委員会	平成22年6月28日
雲魚亭	城中町	牛久市	平成22年6月28日
青面金剛像	東猯穴町	東猯穴行政区	平成22年6月28日
ヤツノ上遺跡出土大洞Ａ式土偶及び土器群	—	牛久市教育委員会	平成23年10月17日
阿弥陀来迎及び千手観音図	久野町	観音寺	平成23年10月17日
田宮山薬師寺参道並木	田宮町	薬師寺	平成23年10月17日
紙本淡彩　老楊と荒村　小川芋銭筆	—	牛久市	平成24年5月21日
紙本淡彩　田家四季草画　小川芋銭筆	—	牛久市	平成24年5月21日
河童の碑	城中町	個人	平成25年4月22日

（平成27年1月1日現在）

参考文献

茨城県神社誌編纂委員会　1973　『茨城県神社誌』茨城県神社庁
牛久市史編さん委員会　1993　『牛久市史民俗調査報告書Ⅱ　城中・新地、上町・下町の民俗　ー水辺と町場の生活ー』牛久市
牛久市史編さん委員会　1996　『牛久市史民俗調査報告書Ⅲ　下根・柏田・東猯穴の民俗　ー小野川沿いの集落の生活ー』牛久市
牛久市史編さん委員会　1998　『牛久市史民俗調査報告書Ⅳ　井ノ岡・小坂の民俗』牛久市
牛久市史編さん委員会　1999　『牛久市史料　石造物編』牛久市
牛久市史編さん委員会　1999　『牛久市史料　原始・古代　考古資料編』牛久市
牛久市史編さん委員会　2001　『牛久市史　近現代Ⅰ』牛久市
牛久市史編さん委員会　2002　『牛久市史　民俗』牛久市
牛久市史編さん委員会　2002　『牛久市史　近世』牛久市
牛久市史編さん委員会　2004　『牛久市史　原始古代中世』牛久市
女化開拓史刊行委員会　1985　『女化　土づくりムラづくり苦闘百年』株式会社エリート情報社
木本挙周他　2012　『市史跡小坂城跡　ー城跡公園整備に伴う調査報告書ー』牛久市教育委員会
合同酒精株式会社　2002　『特別展　カミヤの至宝　ー神谷傳兵衛コレクションを中心にー　(シャトーカミヤ100周年目を迎えるにあたって)』
児玉幸多　1981　『日本の街道２　江戸への道』集英社
佐久間好雄　2006　『図説　稲敷・北相馬の歴史』株式会社郷土出版社
鈴木光夫　1986　『神谷伝兵衛　ー牛久シャトーの創設者ー』筑波書林

索　引

	語　句	説明(ページ)	地　図
あ	赤塚遺跡	2	Ⅳ－㊻
	愛宕神社	16	Ⅱ－㉞
い	五十瀬神社	15	Ⅰ－⑫
	井岡神社	23	Ⅳ・Ⅴ－㉕
う	牛久宿(牛久宿本陣跡)	5	Ⅱ－㉑
	牛久城(跡)	4・6	Ⅱ－㊲
	牛久城大手門跡	16	Ⅱ－㉘
	牛久陣屋(跡)	5	Ⅱ－㉛
	牛久藩	5	—
	姥神遺跡	3・4	Ⅴ－㉘
	雲魚亭	12	Ⅱ－㉝
	雲國寺	20	Ⅳ－㊸
お	王井戸	22	Ⅳ・Ⅴ－㉓
	岡見城(跡)	4・7	Ⅲ－㊼
	小川芋銭	12	—
	小坂城(跡)	7	Ⅲ－㊺
	女化稲荷神社奥の院	18	Ⅲ－㊷
	女化分教場	13	Ⅲ－㊸
	女化道道標	18	Ⅱ・Ⅲ－㊽
	御嶽神社	14	Ⅰ－⑩
か	「改善一歩」の碑	12	—
	貝塚台古墳	3	Ⅱ・Ⅲ－㊹
	鹿島神社(中根町)	15	Ⅰ－⑪
	鹿島神社(猪子町)	15	Ⅰ－⑭
	鹿島神社(田宮町)	15	Ⅰ－⑰
	鹿島神社(遠山町)	16	Ⅱ－㊵
	鹿島神社(結束町)	18	Ⅲ－㊾
	鹿島神社(上太田町)	18	Ⅲ－㊿
	鹿島神社(久野町)	20	Ⅳ－㊽
	鹿島神社(桂町)	20	Ⅳ－㊶
	鹿島神社(島田町)	22	Ⅴ－㉑
	鹿島神社(奥原町)	23	Ⅴ－㉚
	柏田神社	15	Ⅰ－⑲
	河童の碑	12	Ⅱ－㉜
	桂城(跡)	7	Ⅳ－㊷
	鎌倉権五郎景政の墓	21	Ⅳ－㊺
	観成院	16	Ⅱ－㉔
	観音寺	8	Ⅳ－㊾
	観音堂	9	Ⅱ－㉚
	願名寺	8	Ⅴ－㉙
く	久野城(跡)	7	Ⅳ－㊼
	熊野神社	20	Ⅳ－㊻
	黒須嘉市郎の碑	16	Ⅱ－㉔
こ	古井戸	22	Ⅳ・Ⅴ－㉔

	語　句	説明(ページ)	地　図
こ	皇産霊神社(正直町)	22	Ⅴ－㉘
	皇産霊神社(島田町)	22	Ⅴ－㉚
	金剛院	9	Ⅳ－㊿
	金剛界大日如来石仏	15	Ⅰ－⑰
し	獅子見塚古墳	3	Ⅳ－㊼
	シャトーカミヤ旧醸造場施設	10・11	Ⅱ－㊷
	蛇喰古墳	3	Ⅱ・Ⅲ－㊸
	正源寺	16	Ⅱ－⑳
	城中貝塚	2	Ⅱ－㉟
	浄妙寺	9	Ⅳ・Ⅴ－㉒
	青面金剛像(東猫穴町)	14	Ⅰ－①
	青面金剛像(井ノ岡町)	23	Ⅳ・Ⅴ－㉖・㉗
	白川稲荷神社	16	Ⅱ－㉕
せ	浅間神社	16	Ⅱ－㊶
た	大日塚及び大日如来石仏(上太田町)	18	Ⅲ－㊿
	大日塚及び大日如来石仏(桂町)	21	Ⅳ－㊹
	大日塚及び大日如来石仏(島田町)	22	Ⅴ－㊾
	大日如来石仏	14	Ⅰ－①
	田宮一里塚(跡)	5	Ⅰ－⑮
ち	長泉寺	15	Ⅰ－⑱
て	天王峯遺跡	3	Ⅴ－㉑
と	東林寺	8	Ⅱ－㉖
	東林寺城(跡)	7	Ⅱ－㉗
	遠山城(跡)	7	Ⅱ－㊴
	得月院	9	Ⅱ－㉙
な	中久喜遺跡	4	Ⅰ－⑧
	中根一里塚	5	Ⅰ－⑤
	成井一里塚	5	Ⅱ－㊳
に	西ノ原遺跡	2	Ⅰ－⑦
は	俳人石龍の墓碑	16	Ⅱ－⑳
	八幡神社	14	Ⅰ－②
	馬場遺跡	2	Ⅰ－③
	隼人山遺跡	2	Ⅰ－⑥
ほ	宝積寺	18	Ⅰ・Ⅲ－㊺
ひ	東山遺跡	2	Ⅰ－④
み	道山古墳群	3	Ⅰ－⑬
	明神遺跡	6	Ⅱ－㊱
め	「明治天皇牛久行在所」の碑	16	Ⅱ－㉒
	「明治天皇駐蹕之地」の碑	18	Ⅲ－㊹
や	薬師寺	9	Ⅰ－⑯
	八坂神社(牛久町)	16	Ⅱ－㉓
	八坂神社(岡見町)	18	Ⅲ－㊻
	ヤツノ上遺跡	2・4	Ⅰ－⑨
ろ	老楊と荒村	12	—

発行：牛久市文化遺産活用実行委員会
〒300－1211　茨城県牛久市柏田町 1606－1
牛久市教育委員会文化芸術課内
発行年：2015 年　印刷：株式会社 黒須印刷
この冊子は、文化庁の文化芸術振興費補助金を活用して作成しています。

重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設旧事務室